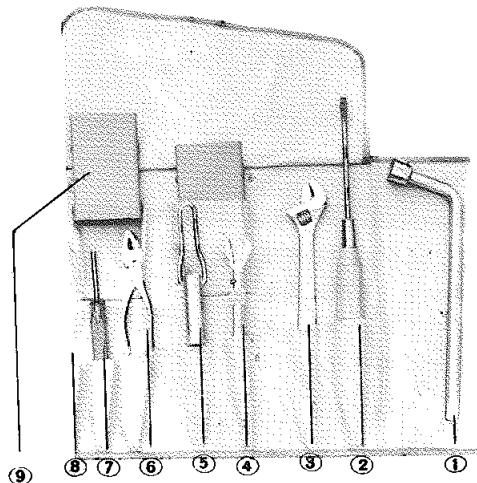


セルフ・サービスのしかた

CORONA MARK II 1700 / 1900

ジャッキと工具



① ハブ・ナット・レンチ

② ⊖ ドライバー

③ モンキー・レンチ

④ 組スパナ (8×9)

(10×12)

(12×14)

⑤ スパーク・プラグ・レンチ

⑥ プライヤー

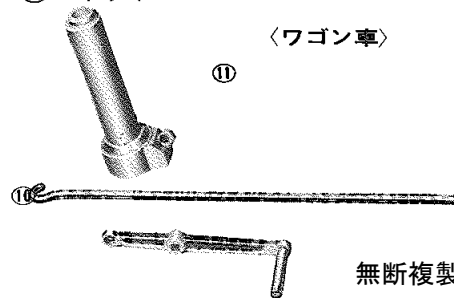
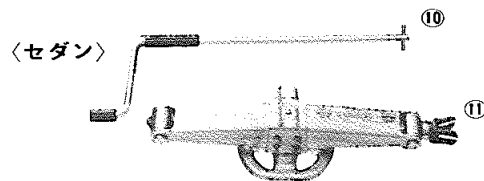
⑦ ⊕ ⊖ ドライバー

⑧ タイヤ・プレッシャー・ゲージ

⑨ 輪止め

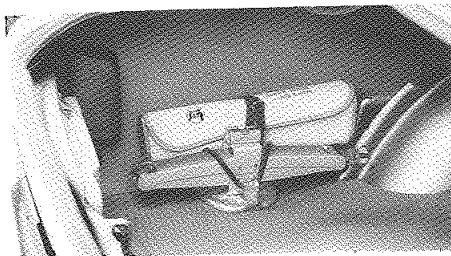
⑩ ジャッキ・ハンドル

⑪ ジャッキ

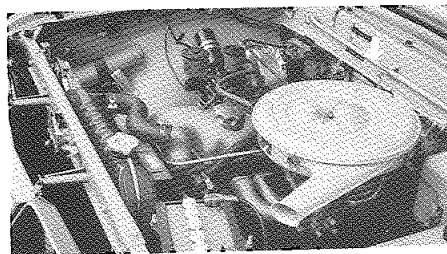


無断複製禁止

■格納位置

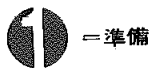


工具とジャッキは、トランク・ルーム内に格納されています。

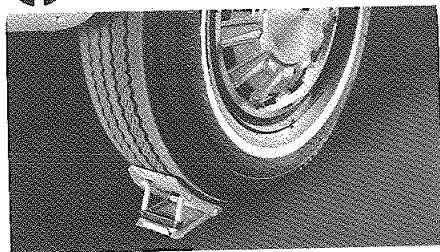


ワゴン車のジャッキはエンジン・ルーム左側に格納されています。工具はフロントシートの下に格納します。

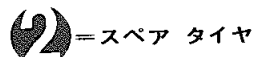
パンクの処置



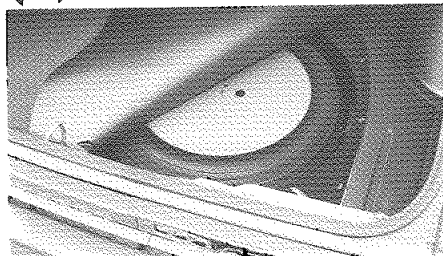
＝準備



- ① まず同乗者や重い荷物などをおろし、車を水平な場所におきます。
- ② 工具、ジャッキなどを取り出し、輪止めを確実にします。



＝スペア タイヤ



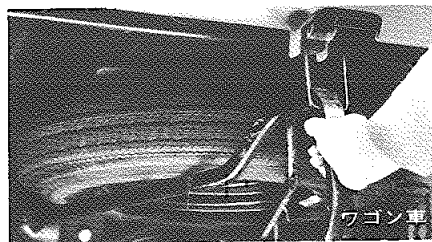
セダン車

セダン車はトランク・マットをはずし、そのままスペア・タイヤを取り出せます。

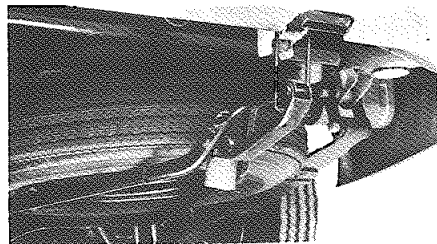


ワゴン車

ワゴン車はハンドルを起こしてフックからレバーをはずします。スペア・タイヤ・キャリアをそっとおろし、スペアタイヤを取り出します。



格納するときはスペア・タイヤをキャリアに乗せてもちあげフックをかけます。フックは上から2段目が標準です。いっぱい前まで押し倒します。

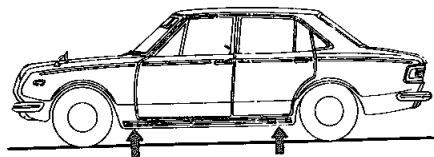


ワゴン車はスペア・タイヤが外部にありますので、写真のように錠前等で施錠することもできます。

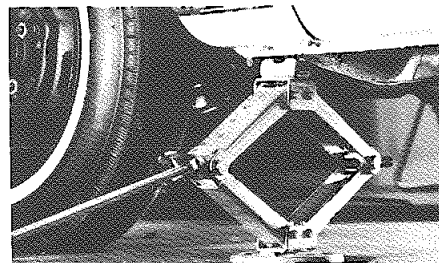
取り出したスペア・タイヤは、ジャッキがはずれたときの危険防止のため、パンクした車輪のボデーの下においてください。

3 = ジャッキをセットする

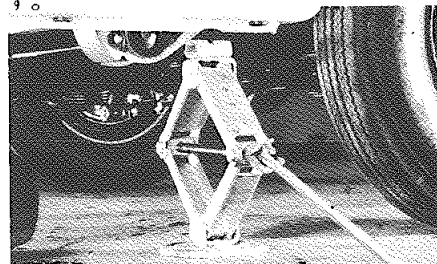
セダン車の場合



交換する車輪に近いサイド・レールにジャッキの受けをはめます。

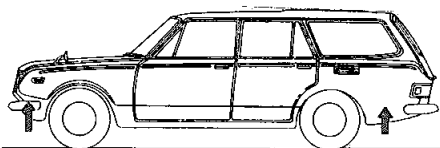


フロント側……フロント・フェンダー取付けボルト横のサイド・レールにかけます。

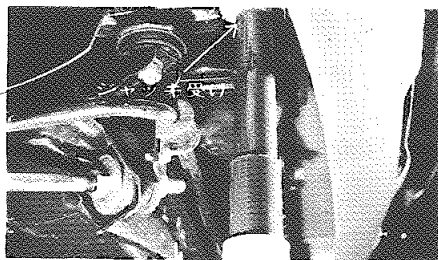


リヤ側……サイド・レールの切りかき部にジャッキをかけます。

ワゴン車の場合



交換する車輪に近いサイド・メンバーにジャッキをセットします。



サイド・メンバーの前端、後端にジャッキの受けがあります。

4 = ホイール・キャップをはずす。

5 = ハブ・ナットをゆるめる。

ハブ・ナット・レンチで4個ともゆるめます。

＜ナットをはずすと危険＞

6 = ボデーをもちあげる。

タイヤと地面が2cmくらいあくまで、静かにジャッキ・ハンドルをまわす。

＜ボデーの下に入るのは危険＞

7 = 車輪をとりかえる。

ナットをはずし、車輪を少しあげるようにしながらはずします。

スペア・タイヤをボデーの下から取り、その位置にはずした車輪をおきます。

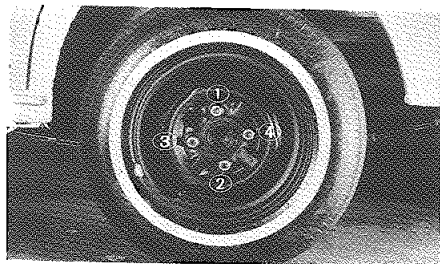
＜ジャッキがはずれたときの危険防止＞

スペア・タイヤをはめ、ナットの平面の方を外側にして車輪にあたるまで締付けます。

ナットを座に落ち着かせるためにゆっくり車輪をまわしながら、ナットを締付けます。

8 = ボデーをおろす。

9 = ナットを締付ける。



写真の順序に、ハブ・ナット・レンチでしっかりと締付けます。

10 = ホイール・キャップをはめる。
タイヤの空気口を、キャップの穴に合わせキャップをたたいてはめます。

11 = タイヤの空気圧を正規にする。

12 = 車輪と工具をかたずける。

ヒューズ・ランプ類の交換

■ヒューズ



各ヒューズの受持っている電気関係の部分は上図のようになっています。

ヒューズ切れを確認する場合には、一つのヒューズの受持っている電気関係の部分が全部作動するかを見て、全部作動し

ない場合にはヒューズ切れ、その中の一つだけの場合はヒューズ切れではありません。

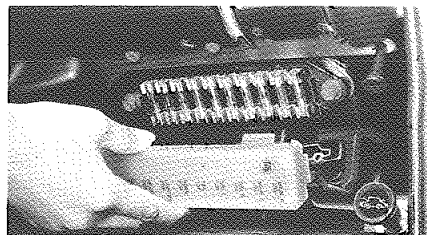
例えば、ヒーター・モーターが作動しないときは、バック・アップ・ランプを点灯

してみます。バック・アップ・ランプも点灯しないときはHEATERヒューズ切れでバック・アップ・ランプが点灯するときはHEATERのヒューズは切れていません。

万一、この方法で作動が回復しないときは他に故障がありますから、サービス工場に連絡してください。

◀注意▶

何度もヒューズが切れる場合には、大容量のヒューズは決して使用しないでサービス工場で点検を受けてください。



ヒューズはそのまま引っ張ればはずせません。

断線したヒューズを発見するための一覧表

不具合箇所 (点灯作動せず) ヒューズ	ヘッドランプ上向 右	ヘッドランプ上向 左	ヘッドランプ下向 右	ヘッドランプ下向 左	フロントの車幅灯 左右	テールランプ 左右	ライセン ス ブレーキランプ	コンビネーション メータ照明ランプ	ホ ー ン	ストップランプ 左右	コンビネーション メータ内のケージ	パーキング ブレーキランプ	ウグフ エンジン 点灯		ヒータのプロワモーター	ワイパ モーター	ウインドウオッ シヤ	タインシグナル ランプ	ハザード ウオーニングラ ンプ	時 計	シガ レツト ライタ	ル ー ム ラ ン プ	バック ア ッ プ ラ ン プ	パー キ ン グ ラ ン プ	
													エンジンス イッチが ONに あれば 点灯	エンジン 回転中 のみ											
MAIN. R 10A	○																								
MAIN. L 10A		○																							
DIM. R 10A			○																						
DIM. L 10A				○																					
TAIL 10A					○	○	○	○																	
HORN 20A									○	○															○
LIGHTER 20A																		○	○	○	○				
HEATER 20A											○	○	○	○	○								○		
WIPER 20A																○	○								
TURN 15A																		○							

■ランプ類の交換

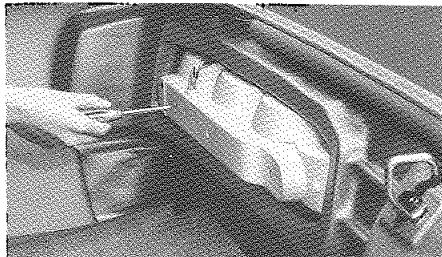
ストップ・ランプ

ブレーキ・ペダルを踏んで、ランプが両方ともつかないときはホーンを鳴らしてみます。ホーンが鳴らないといはヒューズを調べます。

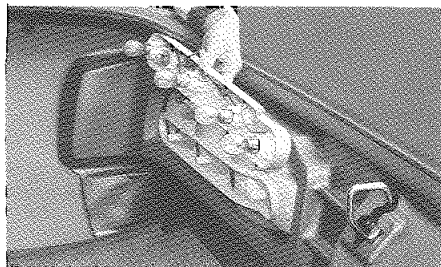
ホーンが鳴るとき、またはストップ・ランプがつかっぱなしのときは、サービス工場に連絡してください。

片方つかないときは、電球を取りかえてください。

セダンの場合

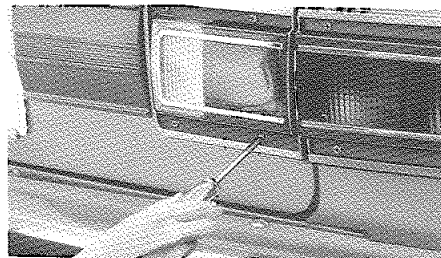


トランク・リッドを開けて、ランプ・カバーをドライバーで、はずします。



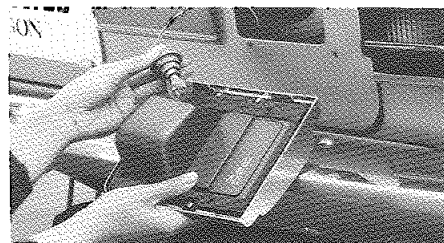
電球を少し押さえながら左にまわしては
ずします。

ワゴン車の場合



ランプ取付けビスをはずし、ランプをはず
します。

ランプ・ソケットを左にまわしては
ずします。



電球を軽く押さえながら左にまわしては
ずします。

電球は12V、23/8Wのダブル・フィラ
メントです。

23W.....	{ ストップ・ランプ ターン・シグナル・ランプ
8W.....	

ターン・シグナル・ランプ

エンジン・スイッチをONにして調べま
す。左右どちらか一方のターン・シグナ
ル・インジケーター・ランプがつかっぱ
なしか、極端に点滅が遅いときは、前後
どちらかの電球が接触不良か切れていま
す。

リヤが切れているときにはストップ・ラ
ンプと同様に行なってください。

フロントの場合は⊕ドライバーでビスをはずしてレンズをはずします。

電球は少し押さえながら左にまわしてははずします。

電球は12V—23/8Wのダブル・フィラメントです。

23W……ターン・シグナル・ランプ

8W……スモール・ランプ

点滅がどちらか遅いときは、遅い方のサイド・ターン・シグナル・ランプが接触不良か切れています。

⊕ドライバーでビスをはずし、レンズをはずします。

電球は少し押さえながら左にまわしてははずします。

電球は12V—8Wです。

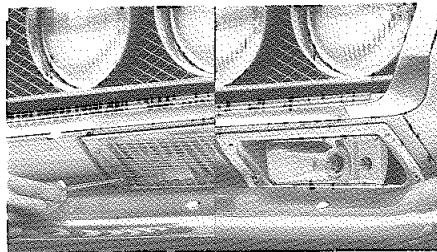
バック・アップ・ランプ

エンジン・スイッチONのとき両方ともつかないときは、パーキング・ブレーキ・ランプが点灯するか調べます。点灯しないときはヒューズを調べます。点灯するときはサービス工場で点検を受けてください。電球は12V—23Wです。

片方つかないときは、ランプが接触不良か切れています。

ワゴン車の場合には⊕ドライバーでビスをはずしてランプをはずします。

電球は少し押さえまわしてははずしま



ヘッド・ランプ

ヘッド・ランプのヒューズは、左右、高目、低目が各々別になっています。どれか、つかないときはヒューズを調べます。ヒューズに異常がないときはサービス工場で点検を受けてください。

スモール・ランプ

フロント・ターン・シグナル・ランプと同様に行なってください。

テール・ランプ

ストップ・ランプと同様に行なってください。

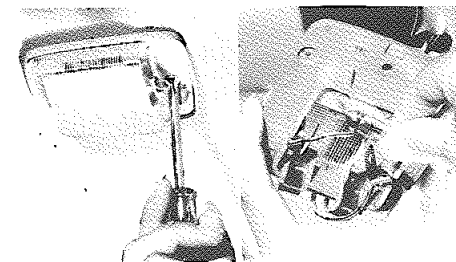
ライセンス・プレート・ランプ



⊕ドライバーでビスをはずし、レンズをはずして、電球を交換してください。

電球は12V—8Wです。

ルーム・ランプ



④ドライバーでビスをはずし、レンズをはずします。電球は、引っ張ればはずれます。

電球は12V-10Wです。

ワゴンの場合は、カバーを引っ張ってはずし、電球を取り換えます。

＜注意＞

ランプ類が正常に作用しないまま運転することは、事故のもとになり、法令にも反しますので、早く修理しましょう。

① ダブル・フィラメントの電球は、方向性があります。電球のボッチの位置にご注意ください。

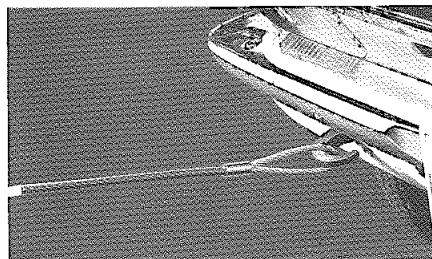
② レンズ取り付けの際、ゴムのパッキング位置に注意し、レンズは平均に締め付けます。必要以上に締め過ぎると、レンズが破損することがありますので、ご注意ください。

③ 電球は接触が悪くて点灯しないことがあります。一度当たり面をみがいて付け直してください。

駄目なときは交換してください。

けん引の方法

けん引ロープをかける位置



フロントにロープをかけるときは、写真のようにけん引フックにかけてください。お買い求めは、コロナ取扱店へお申しつけください。

リヤ側にロープをかけるときは、リーフ・スプリングの先端にかけてください。

《注意》

1. エンジン・キーを一回ONにしステアリング・ロックを解除してから、ACCの位置にしてお車を移動してください。キーを抜いたままや、LOCK位置のまま移動されますと

ステアリング・ホイールが固定され非常に危険です。

2. エンジンが回転していない場合、ブレーキ・ブースタ（ブレーキ倍力装置）は作動しません。したがってブレーキ・ペダルが重く、効きも悪くなりますのでご注意ください。

（ブレーキ・ブースタ付車のみ）

3. けん引フック以外にはロープをかけないでください。
4. 車をけん引するときは、最長が25mを越えてはいけません。またロープが短かすぎると、けん引車に追突する恐れがありますので、ロープは5m前後とし、ロープの中ほどには白旗をむすびます。けん引される車は常にロープがたるまないように気をつけます。

塗装の手入れ

CORONA *MARK II 1700 / 1900*



コロナ・マークⅡの外観をいつまでも美しく保つために、塗装の手入れは非常に大切なことです。

定期的な手入れをすることにより、塗装

面の美しい光沢をいつまでも維持することができますので、正しい塗装の手入れ法をよく理解してください。

■洗車



洗車は適宜つぎのように行ないます。

1. ボデーの下まわりに水圧を上げた水を吹き付け、付着している泥を落します。特にフロント・フェンダー、およびリヤ・フェンダーの内側などは、入念に洗います。
2. ボデーには、十分水をかけながら、スポンジ、またはセーム皮などで軽く塗装表面をなでるようにして、汚れを洗います。
3. 水洗いで落ちにくい汚れは、トヨタ・カー・シャンプーを使用するときれいに落ちます。

4. ボデーに残っている水分は、スポンジ、またはセーム皮でよくふきとります。水滴がついたままにしておきますと、塗装にはん点状のしみがついてしまうことがありますので、ご注意ください。

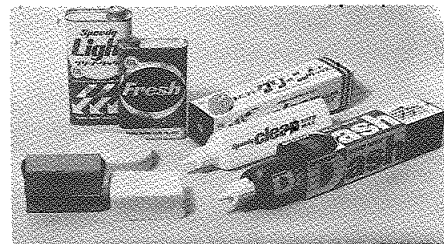
5. タイヤも念入りに洗いましょう。トヨタ・カー・シャンプー、または中性洗剤を用いてブラシなどで洗います。タイヤがきれいだと車も一段と美しさが引き立ちます。

《注意》

1. 塗装面に異物（ばい煙、ピッチ、タール、虫、または鳥のふんなど）が付いたままにしておくと、塗装面が化学変化しやすく、はん点、変色の原因になりますので、すみやかに洗車してください。

2. 海岸地方などを走行し海水が付いたとき、または道路凍結防止剤などが散布してあるところを走行した場合は、すみやかに洗車を行なってください。

■ワックスかけ



ワックスかけは、月に一度、または水のはじきが悪くなったときに行なってください。



塗装の表面にワックス分がなくなると、
無断複製禁止

美しい光沢を失わない、塗装の老化を早めます。このため定期的に良質のワックスを塗布して塗装の保護をしてください。ワックスがけは、次のように行ってください。

1. 前ページの洗車の項を参照して、洗車してください。
2. ワックスがけをします。
トヨタ・オート・ワックス、またはトヨタ・スピーディ・ダッシュのご使用をおすすめします。

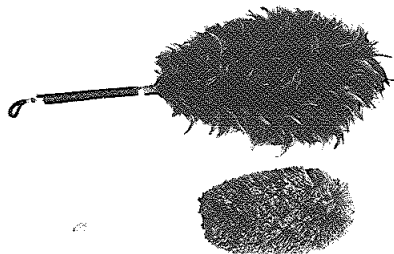


トヨタ・オート・ワックスの使用方法
ワックスを柔らかいスポンジか布で、表面の光沢が少しにごる程度にまんべんなく塗布し、ワックスが乾いたところで、別の柔らかい布かハンド・モップでみが

きあげます。

トヨタ・スピーディ・ダッシュの使用方法
法

少しずつ塗布しながら、別の柔らかい布かハンド・モップでみがきあげます。



【注意】

1. 塗装面が熱いときは、車を日陰に移し、体温以下になってから、ワックスがけを行なってください。

2. トヨタ・スピーディ・ダッシュは早く仕上げることはできますが、トヨタ・オート・ワックスにくらべて、ワックス分が早くなくなります。

3. 落ちにくい水垢、ピッチ、タールなどが付着しているときは、トヨタ・オート・ワックス・クリーナーをご使用ください。

4. 軽いほこりなどは、毛ばたき、またはモッパーですり傷を付けないように、軽く取りさってください。

5. ほこりが取りにくいときには、帯電防止剤入りのワックスをご使用ください。

■コンパウンドみがき

塗装の外観が極度に悪くなり、光沢、色調が回復し難い場合は、ごく粒子の細かいコンパウンドを選んで表面を軽くみがきます。

この場合、局部的にみがくことはさけてある程度の広さを同一方向にみがいてください。コンパウンドでみがいたあとは充分水洗いをし、ワックスにより美しい光沢をとりもどしてください。

《注意》

コンパウンドみがきをひんぱんに行なったり、みがく方法を誤りますと下地が出てきますので、取扱店または塗装店に依頼されることをおすすめします。

常時携行品とアクセサリ

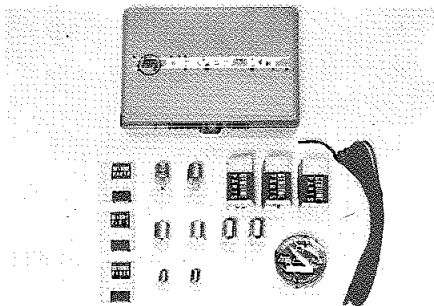
CORONA *MARK II 1700 / 1900*

■常時携行品

お車をご使用になるときは、万一の故障に備え、次のものを常時携行なさるようおすすめいたします。

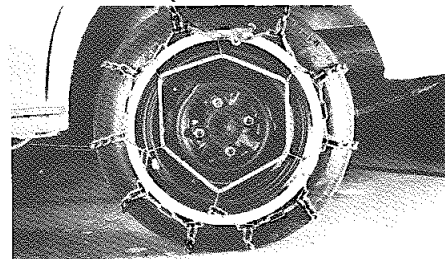
ご購入のときは、トヨベツ・コロナ・取扱店の部品部に用意しておりますのでお気軽にご相談ください。

■オーナー・ドライバー・キット



電球・ヒューズなどの消耗品、または応急品が専用ケースに納めてあります。

■タイヤ・チェーン



雪路、凍り付いた道、ぬかるみなどの走行に欠かすことのできないものです。

ご使用法は 53頁 タイヤ・チェーンの付け方の項をご参照ください。

■エマー・フラッグ

万一の故障に備えて用意しましょう。故障の場合は、他の交通の邪魔にならないところによせて、エマー・フラッグをご活用ください。

■ハイ・フレヤー・セット

発煙灯とエマー・フラッグのセットです。緊急の事故を知らせるとき、特に夜間高

無断複製禁止